

## 池田市における野生動物の生態調査・食害調査

環境緑化科 川添凌駕、久代岬、高見洋人、寺本悠希  
新田義虎、野村壽響、引田圭拓、安井天海

### 【研究目的】

- 1、池田市に棲む野生動物の生態調査をすること
- 2、校内に棲む野生動物の発見マップを完成させる
- 3、五月山と校内において野生動物の有効な忌避剤等の食害対策

### 【生態調査内容】

- 1、カメラに映った野生動物の詳細
- 2、野生動物の侵入経路の調査
- 3、実際に野生動物を目撃した場所の紹介
- 4、校内での環境づくり
- 5、校内での発見マップの作成

### 【食害調査内容】

- 1、自然由来の忌避剤を使用した味覚による対策
- 2、中型犬の毛を使用した嗅覚による対策
- 3、ポールを使用した警戒色・視覚による対策
- 4、鏡を利用した視覚による対策
- 5、水糸による触覚による対策
- 6、超音波による聴覚による対策

### 【結果】

#### 食害調査

同時期に同じ畑の違う畝では食害にあっていたので、効果があったといえる。

#### 生態調査

校内において、アナグマ、アライグマ、イタチ、キツネ、タヌキ、ハクビシンの6種の野生動物の生息が確認できた。また、侵入経路を特定し、経路などにエサ場や植樹による環境づくりを行い、最後に校内の発見マップを作成した。

### 【今後の課題】

#### 食害調査

作物を対象とした検証期間は短く、今後も継続して続ける必要がある。また、雨により効果が無くなったり、レモンの酸により作物を傷めたりと、失敗した部分を改良する必要がある。

#### 生態調査

近年、里山や都市部で野生動物の目撃が多くなっている。温暖化や山の不整備が影響し、山でのエサが減る一方で、人里では簡単にエサが手に入る。そのため、都市部でも暮らすようになるが、ダニを由来とする皮膚病などにかかって、命を落としてしまう。

このことから、人と野生動物の生活空間には線引きが必要。

